



サーフィンと出会って、人生が変わった。  
その喜びを伝えていく。

サーフィンを始めたのは、20歳のとき。それまではスノーボードに夢中だったが、同じボードでもこちらはまったく勝手が違った。

先に始めていた友だちに負けまいと、每晚8時9時まで波と格闘し、そして、ハマった。

横山仁志さんの生まれは東伯郡琴浦町。型枠大工の仕事を辞めて、25歳でオーストラリアに渡る。ゴールドコーストに着いた翌朝、窓を開けると、映像や写真でしか見たことのないビッグウェーブが目の前に。

「パラダイスだ!!と思いましたよ」

語学学校に通いながら和食レストランで働き、住まいも確保。1年間住むように暮らすことで、「苦手だった人とのコミュニケーションも、スムーズにできるようになりました」

プロになるには遅いデビューだったが、負けん気だけでやって来た。帰国後、縁あってこのサーフショップを引き継ぎ、去年もアマチュアの大会で優勝。指導員の資格を取得し、スクールも運営する。

「子どもたちには、庭で遊ぶように海でももっと遊んで欲しい」初めて海に出た子が、ボードに乗れるようになって、次は横に滑っていく。上達していく様子を見るのも楽しいのだ。

「ここから、プロサーファーを出したい」と、指導者の夢も膨らむ。「夏場はサップでちょっと沖に出て、ひょいと釣り竿をなげれば魚も獲れる。湯梨浜の海はいい海ですよ」

クラウドサーフ

横山仁志



ゆ  
う  
ゆ  
う、  
ゆ  
り  
は  
り  
ま